

知床の窓から見えるもの

2018年11月16日（金曜日）

「第36回ふるさと少年探険隊」

町民の皆様はよく御存知でしょうけれども、今年も5泊6日の行程でふるさと少年探険隊が開催されました。そこへ保健係としてくっついていった、診療所看護師Aが今回「知床の窓から見えるもの」を担当させていただきます。因みに私、昨年から診療所でお世話になっております。

7月28日快晴の下、相泊から27名の子ども達と32名の同行スタッフは、ベースキャンプ地である“モイルス湾”へと歩き始めました。不安定な石に足を取られ、岩場にへばりつき、ズルズルと滑りつつも崖をよじ登り、大きな怪我も無く全員がモイルス湾へ到着できて一安心。いやあ、暑かった。小学校高学年のわんぱく隊はここで5泊を過ごします。

じゃあ、小学校6年～中学生のチャレンジ隊は？

はい、翌日から2泊3日の知床岬チャレンジです。今年はチャレンジ隊に付き添って(連れていってもらって)まいりました。いやあ、暑かった。そして、熊がどけてくれない。

岬への道程でもやはり、不安定な石に足を取られ、岩場にへばりつき、ズルズルと滑りつつも崖をよじ登り(よじ下り?)。大きな怪我も無く全員が知床岬へ到着できて、本当によかった。何がよかったって…全部ですよ。全部。皆が怪我なく踏破できたことも、青空に映える海岸線も、知床岬への到達感というか達成感も、熱射病で倒れた人間がいなかったことも。いやあ、暑かった。

この事業の目的としては「ふるさとの自然に親しみ、豊かな心を養うとともに、郷土愛や忍耐力、協調心を育てる」と謳っています。実際、子ども達は「ふるさとの自然に親しんでいた」し、「豊かな心を養っていた」ように(私には)感じられましたし、「郷土愛」も(きっと)育てていたし(と信じましょう)、「忍耐力、協調心」はかなり育てていたように見受けられました。そしてそれは、教育委員会をはじめこの事業を支えるスタッフや、子ども達を心配しつつも送り出すご家族の皆様、事業に理解を示し継続させてくれる町民の方々によって達成されているものと私は受け取りました。

そんな私もまた、「自然に親しみ、豊かな心を養うとともに、郷土愛や忍耐力、協調心を育てて」もらったと思っています。このような得難い経験をさせてくれようと勤務調整してくれた師長を筆頭に、診療所スタッフの皆様我心から感謝です。今後も羅臼町がこの事業を継続できるよう心から願ってやみません。

いやあ、暑かった…

